

◆東日本大震災調査報告会◆

茨城大学では、3月末より東日本大震災調査団を結成し、茨城県の被害調査を開始しました。調査には、学内の5学部全てと主要なセンターから120名以上の教職員・学生が参加するとともに、茨城県、大洗町、NPO 法人大洗海の大学、常陽地域研究センター、筑波大学、土木学会関東支部茨城会、日本地質学会、茨城県北ジオパーク協議会などとも協力しました。そして、4月19日の中間報告会(参加者約200名)を経て5月31日「東日本大震災調査報告書」を発行し、さらに6月1日に報告会(参加者約180名)を行いました。マスコミや県内自治体をはじめ学内外で大きな反響がありました。調査の概要は、以下をご覧ください。報告書のダウンロードも可能です。

<http://www.icas.ibaraki.ac.jp/shinsai2011/>



◆サステナビリティ学入門開講◆

6月4日, 11日, 18日に教養のサステナビリティ学入門が開講されました(正規受講者38名)。東北地方からのゲストから、東日本大震災の報告や、パネルディスカッションなど、熱い議論が行われました。



6/4(土)
三村先生 21世紀の課題とサステナビリティ学
北先生 地球システムとサステナビリティ
木下先生 温暖化と炭素循環
成澤先生 植物と微生物のサステナビリティ

6/11(土)
田村先生 環境と経済のサステナビリティ
吉田先生 水利用とサステナビリティ
桑原先生 生活環境圏とサステナビリティ
小原先生 持続的農村システム

6/18(土)
三輪先生 国際協力とサステナビリティ
中田先生 地域社会とサステナビリティ
小峯先生 エミッションコントロールとサステナビリティ
郡司先生 サステナビリティ教育について

2011年度 ICAS カレンダー

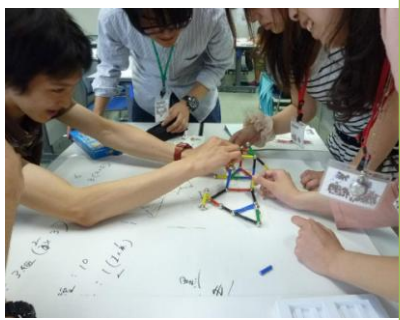
4月	H23年度サステナプログラム履修登録開始 「茨城大学環境マネジメント計画」開始 4/4 第一回 ICAS セミナー 4/19 茨城大学震災調査団中間報告会 4/18 第二回 ICAS セミナー	10月	10/12 RECCA 気候変動対応合同シンポジウム 10/17, 18 ブーケット・ラチャパット大学訪問団来訪 10/27, 28 アジア太平洋 Climate Change Adaptation Forum (バンコク) 茨城県3者連携講演会 ベトナムWS: Dr.Trinh Van 来日
5月	5/16 第三回 ICAS セミナー 5/23 第四回 ICAS セミナー 5/25 国際、国内実践教育演習ガイダンス	11月	11/17-19 UN-CECAR シンポ (茨城) 学内ヒアリング
6月	6/1 東日本大震災調査報告会 6/4, 11, 18 サステナビリティ学入門 6/6 第1回運営委員会 6/10 SSC 理事会 (北大) 6/11 SSC シンポ (北大) 6/13 第五回 ICAS セミナー 6/30 第六回 ICAS セミナー	12月	12/3・4 ISCIU7 (茨城大学学生国際会議) 第3回運営委員会
7月	7/9, 16, 17 サステナ最前線講義 7/27 国際実践教育演習ガイダンス ICAS年報2011 発行	1月	
8月	8/3 国内実践教育演習ガイダンス 8/3-6 ハノイ科学大より2先生来日	2月	
9月	9/3-11 国際実践教育演習 (ブーケット) 9/15, 16 土木学会地球環境シンポジウム(水戸キャンパス) 9/28-30 国内実践教育演習 (大洗) ベトナム海外浸食調査 第2回運営委員会	3月	ICAS 研究報告会 学生サステナフォーラム

*網掛けは ICAS が主催する企画です ICAS の予定に関するお問い合わせは ICAS 本部まで icas@mx.ibaraki.ac.jp

◆大学院サステナビリティ教育プログラム講義（前期）情報◆

● ファシリテーション能力開発演習Ⅰ

6月25日（土）、26日（日）に開講されました（受講生16名）。5～6人のグループに分かれ、「おもしろ村」「ブロックモデル」など多様な課題を前に、2日間激論を繰り広げました。



● ファシリテーション能力開発演習Ⅱ

7月2日（土）、3日（日）に開講されます。

● サステナビリティ学最前線

7月9日（土）、16日（土）、17日（日）に開講されます。

● 国際実践教育演習

7月27日に第2回目のガイダンスが予定されています。

● 国内実践教育演習

8月3日に第2回目のガイダンスが予定されています。

◆島田コーディネーターのちょこっとコラム◆

いつもは、サステナビリティにつながるお話が中心ですが、今回は、緊急で農地の放射能除去のお話をします。震災が収まってから、震災調査にもあけくれず、一人、農地の土壌からの放射性物質の除去の課題に取り組んできました。

わかったことは、土壌の放射性物質の内、半減期が30年と長く問題となる放射性のセシウム137は、土壌中で、粘土中の雲母結合体、有機物結合体、イオン交換体の3つの状態で土壌と結合・吸着されていること、土質にもよりますが数年間は、表土から5cm程度までしか浸透しないということでした。

そこで、表土から5cmの土壌の除去と放射能の吸収を薄く根を張る芝のマットで、セシウム除去を粘土や有機物の土壌からの除去を土壌の水洗いによる泥水分離と沈殿で実践することを提案しました。

除染の手法については農水省のHP及び首相官邸HPの御意見欄を通して各省庁に投げ込んでいます。これまで提案したものは飯館村などで行われている農地の除染実験とその検討の中身に組み込んでもらっています。

一所懸命に取り組むと、大勢の人が力を貸してくれることもよくわかりました。放射能の知識もない素人の私でも何とかここまでできたということは、知見をより多く持つ専門家がオールジャパンで取り組めば、必ず、よりよい答えが出てくるものと期待します。

一人ひとりの力を信じて、お互いに精一杯力を出し合って取り組むことが今必要だと感じています。

◆メンバー紹介◆



安島 清武
(あじま きよたけ)
教育コーディネーター

はじめまして。今年の4月からICASで教育コーディネーターとしてスタッフに加わりました安島清武と申します。大学院では、日本の外国人コミュニティについて研究をしていました。ICASでは、主にサステナビリティ学教育プログラムに関わる予定です。

ICASの一員として活動できることを嬉しく思います。今後とも、よろしくお願いいたします。

◆ICAS 緑のカーテン◆

今年の夏注目を集めている“緑のカーテン”ですが、ICASでも昨年度より取り組んでいます。

定番のゴーヤーの他にも、キュウリ、ミニトマト、アサガオを加え、これからどんな立派なカーテンに育っていくのか楽しみです（早速キュウリを1本収穫しました）。



◆HPリニューアルのお知らせ◆

ICASのホームページがリニューアルしました。

<http://www.icas.ibaraki.ac.jp/> です。今までの内容に加えて、東日本大震災調査に関するページ、研究員のブログ紹介、facebookでの情報発信など、内容もさらに充実しています。ぜひ、一度ご覧ください。



Editor's Note

梅雨に入り、寒暖の差の激しい日が続いております。皆様いかがお過ごしでしょうか？ ICASでも、今年も緑のカーテンが始まりました。梅雨に負けず、たくましく育てられるといいのですが…。ガンバシ、緑のカーテン！ A・K

